

## 提言(案)4-6~4-8(修正案021129版)への委員からの意見(少数意見:注)

	頁	行数	意見および理由 (追加:ゴシック+下線、削除:ゴシック+取消線、理由対応:ゴシック+斜体、全文修正:ゴシック)	委員名 (敬称略)	所 属			対応
					委員会	部会	WG	
4 - 6 ダムのあり方								
参2 -1			<p>&lt;コメント&gt; 4-7~4-9を読んで、特に4-6との文調・内容の落差を感じたこと 4-9では実施計画後のホロー・アップ(follow-up)まで記述している念の入れ方を拝見すると、ダムに関しても、計画策定中、ダム工事中、ダム完成後についても万一の場合はダム建設の可能性を残すのなら触れるべきでないか。よしんば「ダムは今後一切建設しない」と決めつけた場合でも現存ダムの今後の管理や廃棄の方法と事後の活用などについて検討出来ていないことを痛感する。</p> <p>「ダムのあり方」とのタイトルで、4-6は記述しようとし乍ら、「ダム建設の可否」についての判断が文章の中心になっているように思えて、物足りないとの思いが残る。</p> <p>4-6ではダム計画立案に関する踏まえるべき要件のみ上げたが、工事中や工事後のダムを巡る諸問題について、今一步踏み込んだ提言が望まれるのではないかとこの思いを強くした。</p>	倉田	委	琵琶	ダム	
参2 -2	p.4-17		<p>&lt;意見&gt; 4 - 6 ダムのあり方について 部会審議に添う形で、「ダムは原則としてつくらない。」と明記するべきである。既存施設の運用の見直しや、環境への配慮を施した有効利用を徹底して行う。</p>	山本		定		
参2 -3	p.4-17	2	<p>淀川水系では、わが国最大の湖であり、かつ日本最大の水資源開発である琵琶湖総合開発の功罪を経験した琵琶湖が存在するうえに、治水・利水・発電等を目的として多くのダムが建設され、</p>	嘉田	委	琵琶	一般	
参2 -4	p.4-17	2	<p>淀川水系では、総合開発されたわが国最大の湖である琵琶湖が存在するうえに、治水・利水・発電等を目的として多くのダムが建設され、これらが生活の安全・安心の確保や産業・経済の発展に貢献してきている。しかし、ダムは、河川の水质や水温に影響を及ぼすほか、魚介類や土砂等の移動の連続性を遮断する、取水口・放流口間の河道流量を減少させる、安定的な放流操作により流水の攪乱機能を喪失するなどにより、河川の生態系と生物多様性に重大な悪影響を及ぼしている。したがって、<u>ダムの建設については次の取扱いとする。</u> さらに、<u>ダムは建設に多大の経費を要するうえ、地域社会の崩壊をもたらすなどの弊害もある。</u> <u>ダム建設は自然環境に及ぼす影響が大きいため原則として抑制するものとし、このような影響あるいは弊害に加え、ある程度の整備がすでになされているとの理由により、ダムは原則として建設しないものとする。ただし、考えるすべての実行可能な代替案の検討のもとで、ダムそれ以外に実行可能で有効な治水・利水の方法がないということが客観的に認められ、かつ住民団体・地域組織などを含む住民の社会的合意が得られた場合に限り実施するダムを建設するものとする。</u> 地球温暖化による気候変動や社会情勢の変化などの不確定要素に対しては順応的に対応する。 堰についても同様の取扱いとする。 <u>計画中・工事中のダムについても、上記の趣旨に沿い原則として取りやめることを前提に、次の事項について再検討する。</u> <u>ダム建設を計画する者は計画案策定の早い段階から少なくとも次の事項について徹底した情報公開と説明責任を果たさなければならない。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムの必要性と建設予定地点の選定理由</li> <li>・建設地点の選定理由</li> <li>・各種代替案の実行可能性および有効性の比較</li> <li>・自然環境への影響および改善策</li> <li>・自然環境の価値および耐用年数・耐用後の対策を考慮した経済性</li> <li>・住民団体・地位組織などを含む住民判断に必要な事項</li> </ul> <p>&lt;意見&gt; ・12/14今本委員が琵琶湖部会に開示された改定案を支持する。 ・しかし、出来うれば、「今本案文」に工事中・計画中について明記する方が望ましい。 ・やむをえない場合以外は「建設しないものとする」が重要。</p>	倉田	委	琵琶	ダム	

頁	行数	意見および理由	委員名			所 属	対応	
			(敬称略)	委員会	部会			WG
参2 -5	p.4-17	3	<p>( 追加：ゴシック+下線、削除：ゴシック+取消線、理由対応：ゴシック+斜体、全文修正：ゴシック )</p> <p>しかし、<u>ダム建設が地域社会の破壊を招いてきたことに加えて、ダムは、河川の水質や水温に影響を及ぼすほか、魚介類や土砂等の移動の連続性を遮断する、取水口・放流口間の河道流量を減少させる、安定的な放流操作により流水の攪乱機能を喪失するなどにより、河川の生態系と生物多様性に重大な悪影響を及ぼしている。</u></p> <p>&lt;理由&gt; ダム建設に伴う地域の諸々の問題点も示しておくべきである。</p>			有馬	淀	
参2 -6	p.4-17	3	<p>しかし、<u>ダム・堰の設置は、河川の生態系と生物多様性に重大な悪影響を及ぼしている。</u></p> <p><u>(1) 河川の水質や水温に影響を及ぼすほか、</u></p> <p><u>(2) 魚介類や土砂等の移動の連続性を遮断する、</u></p> <p><u>(3) 取水口・放流口間の河道流量を減少させる、</u></p> <p><u>(4) 安定的な放流操作により流水の攪乱機能を喪失する、</u>などにより、<u>河川の生態系と生物多様性に重大な悪影響を及ぼしている。</u></p> <p><u>さらに、ダムは、建設に多大な経費を必要とする上に、建設地の地域社会の崩壊をもたらすなど重大な社会的弊害もある。</u></p> <p>&lt;理由&gt; 文章整理</p>			川上	委 淀	水需 一般 水質
参2 -7	p.4-17	6	<p>河川の生態系と生物多様性に重大な悪影響を及ぼしている。したがって、<u>ダムの建設については次の取扱いとする。そして、ダムは、建設に多大の経費を要し、地域社会の崩壊をもたらしてきた。</u></p> <p><u>したがって、ダム建設は自然環境に及ぼす影響が大きいため原則として抑制する建設しないものとし、考えうるすべての実行可能な代替案の検討のもとで、現在計画・工事中のダムについても建設中止を含む見直しを行う。そして、ダム以外に実行可能で有効な治水・利水の方法がないということが客観的に認められ、かつ住民活動団体・地域組織などを含む住民の社会的合意が得られた場合にかぎり実施建設するものとする。が、地球温暖化による気候変動や社会情勢の変化などの不確定要素に対しては順応的に対応する。堰についても同様の取扱いとする。</u></p> <p>ダム建設を計画する者は計画案策定の早い段階から少なくとも次の事項5項目について徹底した情報公開と説明責任を果たさなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムの必要性と建設予定地点の選定理由</li> <li>・各種代替案の有効性の比較</li> <li>・自然環境への影響・改善策</li> <li>・自然環境の価値を考慮した経済性</li> <li>・住民活動団体・地域組織などを含む住民の判断に必要な事項</li> </ul> <p><u>地球温暖化による気候変動や社会情勢の変化などの不確定要素に対しては順応的に対応する。堰についても同様の取扱いとする。</u></p> <p>既設のダム・堰が機能を低下・喪失した場合あるいは自然環境に重大な影響を与えた場合、ダム管理者は撤去から存続にいたる幅広い検討を行い、存続させるにはダム機能の回復あるいはおよび自然環境への影響の軽減をはかるものとする。</p> <p>&lt;理由&gt; 1、全体としてはこれまでの議論を踏まえて修正。 2、「自然環境に及ぼす影響が大きいため」を削除したのは、ダムはそれだけでなく、治水、利水、将来の撤去などの面からも、大きな影響を与えるためこの表現は正しくない。 3、計画・工事中をはずすのは多くの委員の疑問であり、いちいち説明が必要。おそらく公表したときに一般の方からも疑問と質問が出ることは間違いないので、はっきりと書いておいたほうが良い。 4、住民活動団体」の表現については、4 - 7 住民参加のあり方とところで、P 4-19の3行目で統一した見解を出している。なお、この表現は提言案の全体を通して書き換えるべきである。 5、「考えうるすべての実行可能な代替案の検討のもとで」を削除したのは、地球温暖化の文章を後ろに回し、ダムを建設する場合の条件をつなげたことで、その項目の中に代替案の比較は明記されておりここで書く必要がない。</p>			寺川	委 琵琶	水需 ダム

頁	行数	意見および理由	委員名			所属	対応		
			(敬称略)	委員会	部会			WG	
参2 -8	p.4-17	6	<p>淀川水系では、治水・利水・発電等を目的として多くのダムが建設され、これらが生活の安全・安心の確保や産業・経済の発展に貢献してきている。しかし、ダムは、河川の水質や水温に影響を及ぼすほか、魚介類や土砂等の移動の連続性を遮断する、取水口・放流口間の河道流量を減少させる、安定的な放流操作により流水の攪乱機能を喪失するなどにより、河川の生態系と生物多様性に重大な悪影響を及ぼし、また、農業・漁業などにも大きい被害を与えている。さらにダムは、建設に多大の経費を要するうえ、地域社会の崩壊をもたらすなどの弊害もある。したがって、ダムの建設については次の取扱いとする。</p> <p>上記の理由に鑑み、ダムの建設は自然環境に及ぼす影響が大きいため原則として抑制するものとし、できるだけ進めないものとする。すなわち、考えうるすべての実行可能な代替案の検討のもとで、ダム以外に実行可能で有効な方法がないということが客観的に認められ、かつ住民団体・地域組織などを含む住民の社会的合意が得られた場合にかぎり実施するものとする。地球温暖化による気候変動や社会情勢の変化などの不確定要素に対しては順応的に対応する。堰についても同様の取扱いとする。</p> <p>ダム・堰などの建設を計画する者は計画案策定の早い段階から、少なくとも次の事項について徹底した情報公開と説明責任を果たさなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダムの必要性と建設予定地点の選定理由</li> <li>・建設地点の選定理由</li> <li>・各種代替案の実行可能性および有効性の比較</li> <li>・自然環境への影響・および改善策</li> <li>・自然環境の価値および耐用年数・耐用後の対策を考慮した経済性</li> <li>・住民団体・地域組織などを含む住民の判断に必要な事項</li> </ul> <p>既設のダム・堰が機能を低下・喪失した場合あるいは自然環境に重大な影響を与えた場合、ダム管理者は撤去から存続にいたる幅広い検討を行い、存続させるにはダム機能の回復あるいは自然環境への影響の軽減をはかるものとする。</p> <p>&lt;理由&gt;          今本さんの1217修正におおむね賛成しながらも、さらに若干の修正を試みた。追加した重点は、ダムのもつ弱点は決して自然環境への悪影響だけではなく、治水・利水面でも、少なくとも過去には大きい問題のあったことを覆い隠すべきではないと考えるからである。但し、論議の結果受け入れられなくても、反対意見として付記することは要求しない</p>			川那部	委	琵琶	
参2 -9	p.4-17	6	<p>河川の生態系と生物多様性に重大な悪影響を及ぼしている。さらにダムは建設に多大の経費を必要とし、公共財政への圧迫をもちだすだけでなく、水没予定の地域社会の崩壊をもたらすなどの社会経済的弊害もある。したがって、ダムの建設については次の取扱いとする。</p>			嘉田	委	琵琶	一般
参2 -10	p.4-17	6	<p>したがって、ダムの建設については次の取扱いとする。は原則として建設しない。ダム建設は自然環境に及ぼす影響が大きいため原則として抑制するものとし、計画・建設中のダム・堰についても同様の取扱いとする。ただし、考えうる得るすべての実行可能な代替案の検討のもとで、ダム以外に実行可能で有効な方法がないということが客観的に認められ、かつ住民団体・地域組織などを含む住民の社会的国民の合意が得られた場合にかぎり実施限り、最後の手段としてダムを採用するものとする。</p> <p>&lt;理由&gt;          「抑制する」というのは、表現が曖昧である。後日疑義が生じないように明確に表現すべきである。</p>			川上	委	淀	水需一般水質
参2 -11	p.4-17	6	<p>河川の生態系と生物多様性に重大な悪影響を及ぼしている。したがって、計画・工事中のものを含め、ダムの建設については次の取り扱いとする。</p> <p>&lt;意見&gt;          計画・工事中のダムについての扱いが素案では必ずしも明確ではないので明確にする。</p> <p>&lt;理由&gt;          12/5委員会の資料3-2補足「提言案021113版から021129版への主な修正点について」の「4-6 ダムのあり方」の主な修正点については、          1：計画・工事中のダムについての記述は削除するが、計画・工事中のダムについても「あり方」が適用される、          2：計画・工事中のダムについて、流域委員会が続行か中止かを判断する、という二つの重要なことがのべられている。          しかし、提言素案本文では、1に反して、「あり方は新規計画のみに適用されるのではないかと」と誤解される方もおられるのではないかと考える。せっかくなら誤解のない表現にしたい。          また2は、現在の委員会の体制と能力、また判断にかけることのできる時間を考えると、現実性に疑問がある。この方針で行くのかどうか、いつまでに、どこまでの判断をするのか、判断をするために現在の委員会メンバーおよびその支援体制で十分なのか等について、検討が必要と考える。</p>			原田		淀	

	頁	行数	意見および理由 ( 追加：ゴシック+下線、削除：ゴシック+取消線、理由対応：ゴシック+斜体、全文修正：ゴシック )	委員名	所 属			対応
				( 敬称略 )	委員会	部会	WG	
参2 -12	p.4-17	6	<p>河川の生態系と生物多様性に重大な悪影響を及ぼしている。したがって、計画中・<u>工事中のものも含め</u>、ダム建設については次の取り扱いとする。</p> <p>&lt;意見&gt; 少数意見ではなく、上記記載を本文意見とし、同意見と異なる意見を少数意見とすべきと考えます。</p> <p>&lt;理由&gt; 計画中及び工事中のものも同じように考えることを明らかにしておく必要があるため</p>	寺田	委	淀	水需	
参2 -13	p.4-17	8	<p>&lt;意見&gt; ・ダムは原則的に建設しない。 自然環境ならびに社会的環境をも破壊しかねないダム建設は避けるべきである。治水、利水上、他に方策がない場合に、地元住民や民間団体とよく協議して、その方策を検討して、ダム建設もその選択肢の一つとなりうる。</p> <p>・世にいう、脱ダム宣言は、あまりにも自然環境を無視したものである。森林が存在することで、水資源がかん養できるとの片面的な発想で事を進めるのはどうか。森林および林地の質を追求しないで、外見の樹木の存在だけで判断せず、その群落が、階層構造（高木層、亜高木層、低木層、草木層という）を形成しており、なおかつ、土壌層（A層、B層、C層など）の発達認められて水源かん養なり、土砂流出の危険性が抑制される効果を発揮できるのである。現在、わが国の山地でこの条件をみだしている森林がどの程度分布しているかをよく精査して発言すべきである。</p>	大手		淀		
参2 -14	p.4-17	8	<p><u>ダム建設は自然環境に及ぼす影響が大きい</u>ため原則として抑制するものとし、<u>このような影響あるいは弊害に加え、ある程度の整備がすでになされているとの理由により、ダムは原則として建設しないものとする。</u>ただし、<u>ダムが必要であり、考えうるすべての実行可能な代替案の検討のもとで、それ以外に実行可能で有効な方法がない</u>ということが客観的に認められ、かつ住民団体・地域組織などを含む住民の社会的合意が得られた場合にかぎり実施<u>ダムを建設するものとする。</u>地球温暖化による気候変動や社会情勢の変化などの不確定要素に対しては順応的に対応する。堰についても同様の取り扱いとする。</p>	嘉田	委	琵琶	一般	
参2 -15	p.4-17	8	<p>ダム建設は自然環境に及ぼす影響が大きい<u>ため原則として抑制する認めないものとし、</u> または ダム建設は自然環境に及ぼす影響が大きい<u>ため原則として抑制する建設しないものとし、</u></p> <p>&lt;理由・意見&gt; この委員会がつくられたのは、これまでの河川行政の目標に新たに「環境」が加えられたからであって、これまでの施策に対して反省し、方向転換が求められていると思う。 この委員会では、その方向で議論されてきた。ところが「4-6 ダムのあり方」のところでは、大変消極的な表現となっていて全体としてつり合いがとれていないと思う。 方向性については、緒言p. 諸-2の18～21行で述べられている。それにあうように上記の通り直してほしい。 上記のように直したからといって、既設ダムは認めているし、新しく建設する場合を全て否定しているわけではない。後段をしっかりと読んでほしい。</p>	紀平		淀		
参2 -16	p.4-17	8	<p>ダム建設は自然環境に及ぼす影響が大きい<u>ため原則として抑制する建設しないものとし、</u></p> <p>&lt;意見&gt; 少数意見ではなく、上記記載を本文意見とし、同意見と異なる意見を少数意見とすべきと考えます。</p> <p>&lt;理由&gt; 「抑制」という概念は誤解をまねくおそれがあるため、直載に「建設しない」と記載するのが相当</p>	寺田	委	淀	水需	
参2 -17	p.4-17	8	<p>ダム建設は自然環境に及ぼす影響が大きい<u>ため原則として抑制する採用しないものとし、</u>考えうるすべての実行可能な代替案の検討のもとで、</p> <p>&lt;意見&gt; ダム建設は、「原則として採用しない」、「できるだけ抑制する」、「極力抑制する」、「原則として抑制する」というふうに主張がトーンダウンしてきたため、最終提言としては、どこに気遣うことなく、強く主張すべきと考える。</p> <p>&lt;理由&gt; 淀川部会としては「原則として採用しない」が少数意見ではなく意見として多数意見として確認できたため提出した。</p>	渡辺		淀		

	頁	行数	意見および理由	委員名 (敬称略)	所 属			対応
			( 追加：ゴシック+下線、削除：ゴシック+取消線、理由対応：ゴシック+斜体、全文修正：ゴシック )		委員会	部会	WG	
参2 -18	p.4-17	8	ダム建設は自然環境に及ぼす影響が大きいため原則として抑制する認めないものとし、 <理由> 「抑制」は抑えるだけのニュアンスしか受け取れない。はっきり「造らない」ことを示すべきである。	有馬		定		
参2 -19	p.4-17	15	・ダムの必要性と建設予定地点の選定理由 ・建設地点の選定理由 ・各種代替案の実行可能性および有効性の比較 ・自然環境への影響・および改善策 ・自然環境の価値および耐用年数・耐用後の対策を考慮した経済性 ・住民団体・地域組織などを含む住民の判断に必要な事項	嘉田	委	部	一般	
参2 -20	p.4-17	下から6行目	・自然環境影響評価の実施に基づく環境への影響・と代替処置を含む改善策	川上	委	定	水需一般水質	
参2 -21	p.4-17	下から3行目	既設のダム・堰がその本来の機能を著しく低下・喪失した場合、当該ダム・堰の機能と同様の効果が他の方法で得られる場合、当該ダム・堰によって得られる利益よりも維持管理や修理のための経費を含む経済性が劣るようになった場合、あるいは自然環境や地域社会に重大な影響を与えたる場合、ダム管理者は撤去から存続にいたる幅広い検討を行い、引き続き存続させる場合にはダム機能の回復あるいは自然環境・地域社会への影響の軽減をはかるものとする。	川上	委	定	水需一般水質	
参2 -22	p.4-17	最下行	・・・存続させるにはダム機能の回復あるいは自然環境への影響の軽減をはかるものとする。計画・工事中のダムの中で、すでに地域社会の合意がなされ計画が大きく進展している場合には、さらに二次的な地域社会の崩壊をもたらさないような社会的配慮が必要である。 <意見> 最後のパラグラフに追加を希望	嘉田	委	部	一般	

4-6ダムのあり方（記述訂正）に関する委員意見集計結果(1/7 12:00現在)

案1：できるだけつukらない	8
案2：原則としてつukらない	9
案3：できるだけ建設しない	0
案4：原則として建設しない	23
案5：その他	2
合計	42

1/7 12時現在

No.	意見・理由
<b>案1を支持された委員からの意見</b>	
1	いままでの観念的な流れからすると、ダムはできるだけ避けようとの考えのようであったが、今回提示の修正案では、1. できるだけつukらないを採用すべき。 ダムは環境・治水・利水トータルな施設であり、総合的に見る必要があるとともに、地域によっては代案の一つと考えられる。代案の議論がないまま、反ダム、脱ダム宣言そのものに結びつく、2.、4. は受け入れられない。
2	1. (大切な) 真水を無制限に(短時間で)海に流してしまうのも困るわけである。 2. 色んな形で有効に利用することも大切である。 3. 医師としての立場から申せば、70%水分で構成される人間の体から考えた場合、胆嚢、膀胱、涙腺、涙嚢のように、亦、腎のように生理的機能として濃縮、貯溜、希釈、排泄機能でバランスが保たれている(発汗、動静脈弁、リンパ液、関節液等)ことを忘れてはならないし、お互いの存在を否定するべきでない。利水ダムとして妥協点をどこにどのように決めるかである。 4. 従来は建設の段階での費用のかけ方に計画性が不足したのでは。 5. できるだけつukらない点で賛成である。上記(3)の点からもつukらなければならないこともあるので、全く不要とはいききれない。
3	ダムも建設方法・場所など状況によっては、一番コスト的にも自然環境に対しても負荷が小さいケースもあると思われるため。
<b>案2を支持された委員からの意見</b>	
4	「できるだけ」はつukることが前提にあるように思われる。
5	どの案をとっても、その後の文章がワンセンテンスとして長すぎる。「ダムは・・・ないものとする。ただし・・・」と続けた方が日本語としてすっきりすると思います。
6	堤外のグラウンドにしても、ダムにしても、考えるときのスタート地点(原点)を従来の「あって(作って)当然」が「ないのが(作らないのが)最善」へ変えようという提案であると理解しています。しかしこのことが一般の方に理解されているか、疑問がまだあり今後も議論がありそうです。
7	ダムの維持費(1年間分)だけでも、その地域の活性化が図れる。森だけでなく、それ以上のものも守れるはず。滋賀県の場合なら、ダム1個分で県全部の森を維持管理できる。森を管理してやればダム以上の効果があるはずだし、また、その地域にも貢献できる。ダムを造る人は、その地域にマイナス効果が絶対にあるということを知って、代替案にダムを考えないで欲しい。
8	理由：修正案のなかで変革の理念をよく表している、2, 4のどちらか。 4の、「原則として建設しない」もほぼ同じ趣旨と理解できるので、もし票が割れるならば、死に票にせず、4を第二候補で推します。
<b>案4を支持された委員からの意見</b>	
9	簡潔で、分かり易いと考えられる。
10	中間答申のままでよい。
11	まもなく満2年を迎えようとする委員会及び各部会での、環境・治水・利水の今後のあり方に関する議論や検討を通じて、「原則としてダムは建設しない」という方針は、いまや委員会及び各部会の委員の多数意見と判断するのが至当であり、この問題に関しては「できるだけ」「抑制する」など曖昧な表現で最終提言すべきでないと考えます。
12	これでなければいけないとの意見ではありませんが、選択としては、案4「原則として建設しない」が適当であると考えます。
13	「できるだけ」⇒この言葉は、裁量の幅をもたず場合に用いる表現で、「方針」を不明確にしてしまう。つまり、あいまいで、姿勢を貫けない。 「つukる」⇒この言葉も幅のある用語で、その中の一つが建設だからハッキリと「方針」を打ち出すには「建設」を用いるべきだ。

No.	意見・理由
14	<p>・この分け方は不可解です。1と2、4と5で充分です。例えば2と4が分散したらどうするのですか。方法としては1+3の合計、2+4の合計で解決すると思います。</p> <p>・ダムが全面的に詳しい駄目だとは記されていません。「原則として・・・する。・・・しない」の表現は必ず後段に除外の文が継続されるのであり、文の構成としてベストであると思います。「できるだけ・・・」の表現は「できるのであれば・・・つくろう」という考え方につながると思われ曖昧です。</p>
15	<p>わかりやすく議論の結果を集約している。問題は、1と3、2と4は違いがほとんどないとも言えるので、分散したときの対処は検討すべきである。</p>
16	<p>「ダム」は原則として建設しない「つぐらない」との違い？</p>
17	<p>「できるだけ」は最初からダム建設を一つの選択肢としており、現状と同じ方向性になってしまう。</p>
18	<p>案4を採用する。ただし原則適用の対象を明確にするため、その前の文節（p.4-17、6行目）を、次のように修正することを必須の条件とする。  「したがって、<u>計画中・工事中のものも含め、ダムの建設については次の取り扱いとする。</u>」  なおこの修正は「少数意見」ではなく「本文意見」として採用するよう要求する。</p>
19	<p>「建設しない」「つぐらない」はどちらでも、多数の方が支持される方がいいと思っています。ただ、「できるだけ」という言葉は「できる」基準しだいで、あいまいになってしまわないかと思います。</p>
20	<p>淀川部会としては、原則として建設しない、という考え方が多数意見である。ダム以外の代替案についてどうしても不可能な場合は、下記の厳しい条件の元で検討の余地が残されており、「原則として建設しない」と文章上整合している。（「原則としてつぐらない」でもよいが、主語との文章表現上合わない）</p>
21	<p>・私は、「抑制する」でよかったと思いますが、この4案の中であれば提出案を支持します。</p> <p>・ただし、「堰についても同様の取り扱いとする」との記述とのなじみが悪くなると思いますので、この表現を採用するのであれば、「ダムと同様の影響を及ぼすような堰についても」との説明をつけたほうがよいと思います。第十堰のような堰まで否定するのはおかしいと思います。</p> <p>・「できるだけ」という表現は、必要の問題を努力量の問題に転化するおそれがあるので避けるべきだと思います。</p>
22	<p>従前の状況に反省を加え、将来に向けてダムを建設しない旨を強く主張すべきである。</p>
<p><b>案5を支持された委員からの意見</b></p>	
23	<p>原則としてつぐらない方向と方策を基にして  （上記にともなって）「P4-6 10行目」  かつ住民団体・地域組織流域などを含む  水系活動住民・地域住民 などを含む</p> <p>&lt;意見&gt;  将来の20～30年を見据えて「計画」後の実現に近づけるための方策とその推進プロセスを考えれば、河川管理者はもとより、流域・水系住民、地域住民を中心に直接・間接にも関係する他の分野との「新たな理念」に基づく時間軸を含む調整とその新たな認識での合意形成づくりが必要となる。</p>
24	<p>いずれも可；実質的にそれほど違いがあるとは思いません。大勢に従いたいと思います。</p>